

うたしない

Utashinai



【今月の表紙】

待ちわびたスキーシーズンの到来に賑わいを見せるかもい岳スキー場の様子です。

指定管理者による新たな運営体制のもと12月1日にオープンしました。

今シーズンもスキー・スノーボードなどのウィンタースポーツを存分にお楽しみください！

リフト運行予定などは、下記のかもい岳スキー場ホームページで確認できます。

http://hofu.web.infoseek.co.jp/ski_p/index.html

年頭のごあいさつ.....	2
今年は子年.....	4
民生委員・児童委員を紹介します.....	6
健康診査が変わります！.....	8
平成20年4月からの国民健康保険.....	9
財政健全化法における基準値が公表されました.....	10
議会の動き.....	12
平成19年度歌志内市功労者表彰式.....	14
広報トピックス.....	18
くらしのカレンダー.....	20
くらしの情報.....	22



謹賀新年

市長・議長年頭のごあいさつ



歌志内市長 泉谷和美

市民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、輝かしい新春をお健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

この1年を振り返りますと、スポーツの分野では、日本一は逃したものの北海道日本ハムファイターズのパ・リーグ連覇や、コンサドーレ札幌がJ2リーグ戦優勝によって6季ぶりにJ1昇格を果た

すなど、素晴らしい感動を道民に与えてくれました。

その一方、能登半島地震や新潟県中越沖地震など、大きな災害の発生により、多くの方が住む家を失い、またミートホープ社の牛肉偽装事件をはじめとする食に関する不正が次々と発覚、さらにはとどまるところを知らない燃料油の値上げなど、私たちの生活を直撃する事件や出来事が多く発生した年でありました。

本市において喫緊の課題となっており、まず財政問題では、一昨年に不適切であると指摘された空知産炭地域総合発展基金からの長期借入金について、チロルの湯の施設売却などにより一括償還を行い一応の解決を図ったところですが、これに伴い策定した財政健全化計画において当市は多くの事業の見直しを図ることに、市民の皆さまにご負担をお願いすることになりました。結果、18年度一般会計決算は赤字となりましたが、当初3億5千万円の赤字見込みから1億6千万円まで縮小できました。今後も限られた

財源の中であつても、市民生活に欠かせない事業を中心とした安全・安心なまちづくりを推進して参ります。

また昨年は、民間事業者の皆さんの知識や経験を活かし、施設の効果的・効率的な運営を行っていただくため、道の駅「うたしなチロルの湯」をはじめ、かもし岳温泉、かもし岳スキー場の指定管理者制度への移行を進めて参りました。特に道の駅では新たな特産品として販売をはじめた「漬物」を前面に出した第1回北海道漬物選手権を10月21日に開催し、市内外から1,500人ももの来場者を迎えるなど、指定管理者となられた皆さんの新しい力が現れて来ているものと感じており、「食」を一つのテーマとし、民間手法による各種サービスに努めている「チロルの湯」と一体になった今後の事業展開に期待をしているところであります。

しかしながら、主要な収入であります地方交付税の制度見直しなどにより予算は許される状況になく、また年末に総務

省が公表した健全化判断基準では、新聞報道にあります財政再生団体への移行は回避できる見込みですが、早期健全化団体に該当するなど山積される課題への対応に迫られる状況に変わりはございません。

このため、財政健全化計画のもと着実に歩みを進め、一年でも早く赤字を解消して参りたいと考えておりますので、市民の皆さまのよりいっそうのご理解とご協力をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

皆さまにとりまして、新しい1年が健康で幸多き年でありますよう祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。





歌志内市議会議長 梶 敏

平成20年の年頭にあたり、市議会を代表して新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、市議会に対しまして、市民の皆さまの温かいご理解とご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、いま、国と地方がともに繁栄していく真の地方分権改革の実現に向け、新たな地方分権改革推進法の早期制定が強く求められています。

昨年の参議院選挙では、地域間格差を是正し、地方切り捨ての構造改革を抜本的に見直すことを求める国民の意思が明白に示されましたが、これまでの地方分

権改革に向けた取り組みは、地方の懸命な努力にも関わらず、国の既得権限の壁は依然として厚く、財政・権限移譲など全体像が見えないのが現状であります。

このような中であつて、本市にとつても「地方分権」を名目にした「三位一体の改革」による大幅な地方交付税の削減や空知産炭地域総合発展基金からの長期借入金の一括返済に充てた財源確保措置の影響により危機的な財政状況におかれていることは市民の皆さまもご承知のとおりであります。

市議会といたしましても、市民の皆さまの代表として、この苦境を乗り越え、明日の歌志内の進むべき道を切り開いていくため、全力を傾注して参る所存であります。

また、これからの本市を考えると、産業の創出・育成が重要であります。チロルの湯は民間事業者の運営となり、利用者にもますます喜ばれるスポットとなるよう期待しており、道の駅「うたしなないちロルの湯」は昨年からの市の指定管理者として、民間の発想と行動力による集客でマスコミにも取材を受けているところであります。さらに本市の観光の柱となっている

かもし岳スキー場と温泉も民間の知恵と経験を活かした集客・経営に大きく期待をしているところであります。

そして、今日まで本市を支えてきた空知炭礦(株)は露天掘りで電力の需要に応えるなどの貢献をしており、(株)歌志内太陽ファームによるワイン用ぶどう栽培事業ではワインフェスティバル in 太陽の丘など、市内外から多くの人が集まる本市を代表するイベントに定着し今後に大きく期待するところであります。

また、歌志内興産(株)の北海道鶏養鶏事業や(株)エコバレー歌志内、(株)メディアカルセフティ・システム歌志内工場を含めた地域振興に資する地場産業として、活性化と雇用の場が広がることを願っております。

全国的な少子高齢化時代により、人口の減少が続いておりますが、本市の人口も、昨年5,000人を割り、本年4月に小学校へ入学する新入生は30人ほどの見込みです。少人数ながらも、将来を担う子どもたちが歌志内で教育を受け、多くの友達とさまざまなを築くことができたと考える教育環境づくりがたいせつと考えております。また、本市の高齢化率は38%

を超えており、これまでの歌志内を築き、支えてきた皆さんが、これまで培ってきた能力、技術と人のつながりを存分に活かし、ここが終の住み処になるように願っております。

昨年の改選期では議会自らが定数・報酬の削減を行い、市民の皆さまの審判を受け、この難局に光が見えるよう全力で立ち向かおうと決意を新たにいたしましたのであります。

今後とも、私どもは慎重かつ大胆に、議員一丸となつて全力を尽くして参りますので、本年も皆さまのご支援、ご協力をお願いするとともに、ご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。

